

相談分科会について

1 設立趣旨

障害者相談支援は、本人のニーズに寄り添い、地域生活への意向や安定した生活に向け、様々な情報提供をはじめ、自己決定に必要な提案、助言、支援を行うという極めて重要な役割を担っています。

そこには、制度・サービスありきではなく、利用者のニーズや望む暮らしを実現するために、地域の社会資源を活用し支援計画を作成・実行するとともに、地域のネットワークや社会資源の改善・開発にむけたまちづくりに努めるといった役目も担っています。

しかしながら、個々の相談支援専門員の感性や力量、事業所の経営基盤等に頼るところが多く、財源・人員体制の脆弱さを背景に、結果として相談員のバーンアウトや、サービスは利用していてもサービス等利用計画に移すことができない多数の障害児・者の現状があります。

相談支援事業所は、地域で暮らす障害児・者の方々が、安心して暮らす社会の構築に向けて、今後さらに地域課題の解決やネットワークの構築を目指していく必要があり、中立・公平な相談支援活動を実施するとともに、互いの知識・技術の交流及び研修を行うことにより資質の向上を図りたい。

また、事業所で抱えている困難事例の解決や地域課題の抽出を行いながら、当市の実情をふまえたネットワーク構築、社会資源の改善・開発にむけ活動行っていく。

2 1年間の取り組み

<平成30年8月～令和元年7月の取り組み>

(1) 相談分科会勉強会

平成25年より、相談支援事業所の相談支援専門員が集まって、月1回勉強会や情報交換を行い、平成29年8月からは、久留米市地域生活支援協議会のなかの相談分科会としての位置づけで活動している。

活動内容としては、相談支援専門員が知りたい社会資源や行政からのお知らせ、困難事例の事例検討の他に、相談支援専門員の質の向上を図ることを目的に外部講師を招いての研修を企画した。頻度としては、毎月1回 第3木曜日に定期的実施して、毎回40名前後の参加があった。

年月日	内 容	参加人数
H30.8.16	講義・グループワーク「連携について」 九州産業大学人間科学部臨床心理学科 倉知延章 先生	37名
H30.9.20	・包括支援センターとの連携について ・介護保険と障害福祉制度の関係について	41名
H30.10.18	・発達が気になる子の特性理解と支援について ・スクールソーシャルワーカーの活動について	52名

H30.11.15	・ A型の役割と報酬改定の実情について ・ K'sファームの取組み	39名
H30.12.7	意見交換会	33名
H31.1.17	講義・グループワーク 「倫理と価値に基づいた相談支援の実践について」 久留米大学文学部社会福祉学科 片岡靖子先生	45名
H31.2.21	講義・グループワーク 「ケースメソッドを用いた実践力の向上」 久留米大学文学部社会福祉学科 片岡靖子先生	34名
H31.3.14	バリアフリーカフェ in 相談ネット	38名
H31.4.18	久留米市の災害対策について	43名
R1.5.16	講義 「発達障がいの子ども達を地域でみること」 久留米市幼児研究所 家村明子先生	40名
R1.6.20	災害対策について考えよう ～避難行動要支援者名簿、避難支援の充実のために～	33名
R1.7.18	集団指導	52名

イ) ヘルプカード

相談支援専門員から災害時の不安についての声を受け、災害ワーキングを立ち上げ、ヘルプカード制作について、これまで5回の事務局会議と2回のワーキングを実施して試作品を作成し、当事者分科会からも意見を求めている。

そのうえで、今年5月より障害を持つ方々に配布して試行していただいている段階である。

3 課題

- ・ ソーシャルワークとサービス等利用計画の質の担保
- ・ サービス等利用計画に載らないセルフプランの多さ
- ・ 医療や教育機関との連携の難しさ
- ・ 適正なサービス支給量
- ・ 定期的な事例検討会
- ・ 近年災害が多発するなか、その対応について相談員の不安が大きいことから対応策を検討していく必要がある。

4 事業計画

<令和元年8月以降の取り組み>

ア)研修・意見交換会

くろめ相談ネットでは、本年度当初に全会員に向けてアンケートを実施し、36名より回答を得た。

そのなかで、相談ネットへ参加する目的としては、「ネットワークづくり・情報交換」「専門性のための研修機能」「社会資源の情報収集」というところが多かった。

平成30年度の企画では、久留米大学社会福祉学科の片岡靖子先生による「倫理・価値に基づいた相談支援の実践」「ケースメ

ソッド」について、とても良かったという方が多く、スーパービジョンを受けたい相談支援専門員が多いということが分かった。

また今後の研修方法として、エリア毎に分かれての事例検討会もしたいという意見も出ていたため、多職種の参加もできるような方法も検討していきたい。

今年度も外部講師の予算を計上しており、相談支援専門員の質の向上や情報交換として、研修会・意見交換会を定期的を実施していきたいと考えている。

イ)ヘルプカード

現在、ヘルプカードの試作品を配布して使用していただいているところであり、8月には利用していただいた方に追跡調査を行い、使いやすさや改善点等も再検討し、施策推進部会に諮り障害者の安心安全な生活の一助にしていきたい。

また相談支援専門員の業務を通して、災害時の対応をどのようにしていけばいいかが分からないという不安感が出ており、災害対応を検討したいと考えている。